



「キャンプ瑞慶覧①」

はじめに 今月から

キャンプ瑞慶覧の『ぎのわんの歴史・文化遺産』を紹介し、戦前のキャンプ瑞慶覧の基地内は、普天間、

安仁屋、伊佐などの集落が所在し、現在の国道五八号東側一帯は豊かな湧き水を利用した水田が一面に広がる沖縄でも有数の稲作の産地でした。戦前の様子や利用状況などを知る方々も少なくなりつつある中、地域の方々より聞き取り調査を行い、戦前の風景や湧泉の様子をイメージしたスケッチ図を作成しています。

**喜友名の七ヌカー** 喜友名には、喜友名泉（ウフガー・カークワー・アカンナー・ミーガー・ヒージャーガー・

バシガー・ヤマガーの湧泉があり七ヌカーと呼ばれ大切にされてきました。

**喜友名泉** 喜友名の方々の簡易水源として現在も利用されています。とても大きな石灰岩を何枚も使って造られていることから国指定有形文化財に指定され、整備されています。



アカンナー 水量が豊富

で、子どもが泳いで遊んだりしていたそうです。そばを流れる水路には、女性の洗髪に使うクチャを取る「チチウトウシ」と呼ばれる場所があったようです。

**ミーガー・ヒージャーガー**

湧泉の下流には棚田が広がり、近くには「ミーガーマーチ」という大きな平松があり、その広い木陰は農作業の絶好の休憩場所だったそうです。

**バシガー** 喜友名グスク

に関係のある位の高い女性の水浴びをしたと伝えられている湧泉で、どんなに大雨でも湧き水が濁らなかつたそうです。

**ヤマガー** 近くには「ヤマガーマーチ」と

いう、大きな平松がありました。また、この付近には、「フニクンジャー石」（船を係留する石）や「ジンナト」という地名などが伝えられています。

※アカンナーにかわってグスクヌカーを七ヌカーの湧泉とする話もあります。

問合せ：文化課 ☎89314430



茶ぐわーゆんたく

111

1956年の夏・島ぐるみ闘争

1955（昭和30）年10月、米国の下院議員、メルヴィン・プライスを中心とした「プライス調査団」が沖縄に来島しました。この頃すでに「銃剣とブルドーザー」による土地の強制接収が、本市伊佐浜を含む沖縄各地でなされており、沖縄の人々は調査団に軍用地問題の改善を期待していました。

しかしながら、翌56（昭和31）年6月に発表された「プライス勧告」は、軍用地問題の改善どころか、沖縄の基地の重要性を再確認するもので、地料の一括払いによる永久借地権の取得、新規接収の勧告を明記し、さらには核兵器の自由使用、そ

して当時空軍の補助飛行場であった普天間飛行場の将来的な利用計画を示唆していました。

一方、沖縄の人々は、①一括払い反対 ②適正補償 ③損害賠償 ④新規接収反対の「四原則」を打ち出していました。本市でも「四原則貫徹」「プライス勧告粉砕」をスローガンに、村議会議員は総辞職を表明し、村民大会では約8千名の村民が参集するなど、大きな動きに発展しました。またこのような動きは大人たちに限らず、野嵩高校（現・普天間高校）でも総決起大会が開かれたように、青年層においても活発であったことがうかがえます。

このようにして、沖縄の人々の怒りは燎原の熾火の如く広がり、「島ぐるみ」とまで形容されるほどの大きな市民衆闘争へと発展していきました。島ぐるみ闘争は米軍占領に対する、沖縄の人々の抵抗の結集といっても過言ではありません。

（文責 清水史彦）



四原則貫徹県民大会（1956年7月）

『宜野湾市史』への問合せ  
文化課 市史編集係（市立博物館内）  
☎870-9317